

2016年4月10日、台中の友達、信ちゃんに会うため台湾北部の瑞芳駅から列車で30分ほど乗り、昼過ぎに台北駅に着いた。台北駅は何回か来ているが、通路がわかりにくい駅だ。台北の地下鉄「捷運」^{MRT}の出入り口が地上、地下に触手を伸ばして複雑だ。切符売り場と、改札の関係がよくわからない。在来線の改札も並んでいるので、まごついてしまう。荷物を抱えて行ったり来たりした末、やっと高鐵（台湾新幹線の略称）の窓口を見つけて、台中までの自由席切符を買った。

高鐵の地下待合所は、無料で趣が無い。空間に余裕が無かったので仕方ないが、これから旅に出るぞという感じがしないし、狭くて暗く、並列ベンチは病院の待合所みたいだ。日本の新幹線駅のように、ホームで待つことはできず、この待合所で、「開門」まで待つ。

予定した列車に乗り込み、1時間ほど揺られると台中に着いてしまった。車中の景色は高速鉄道の常で速すぎて面白くない。

高鐵台中駅は、在来線の「台中駅」とはかなり離れているが、新規に建設しただけあって広々としている。広すぎて友人の信ちゃんと待ち合わせ場所に困る。改札は三か所あり「改札前で会いましょう」というわけにはいかない。

一旦、改札外に出て、一通り見渡したが彼の姿は見えなかった。動き回るのはかえって混乱すると思って、空港にあるような長椅子式の待合ベンチに座り、信ちゃんの方で見つけてくれるのを待った。

何分かたって、ようやく信ちゃんが奥さんと手分けして私を捜し当ててくれた。やれやれ。お久しぶりの挨拶の後、信ちゃんの中古ベンツで、予約したホテルに納まり、一息つく。

■^{タイナンタンツーメン}台南担仔麵（台中店）

夜になり、夕食をご馳走になる。信ちゃんの見立てで行ったところは、「台南担仔麵（台中店）」。

もともと「担仔麵」は屋台の店で売っている、小腹



それぞれの国旗を並べて。正面は台湾国旗の信ちゃん

が空いたときに食べる汁そば。この店も前身はそのような小店舗だったが、奮起して高級海鮮料理店に発展した。「台南」と頭に付くのは東京のラーメン店に「喜多方」と付いていたりするのと同じか？

調度品は綺麗、店の雰囲気もよい。肝心の料理の内容は、たいへんよかった印象があるが、細かい内容は忘れてしまった。すみません。

印象深く覚えているのは、私が日本人と分かる、係が日の丸の小旗をテーブルに持ってきた。信ちゃんには台湾国旗「青天白日旗」が用意された。まるで国際会議場ごっこのようでおかしかった。それならば、客が大陸の中国人のときには中国国旗、「五星紅旗」が用意されて「青天白日旗」と並び立つかどうかは興味のあるところだ。

■^新新台湾原味餐廳-人文懷舊館（高雄）

台中で一泊の後は、台湾南部、高雄のすぐ沖にある「小琉球」という小島に行った。ネットで調べると「小琉球」の由来は、台湾では沖縄本島近辺の島々の総称を「琉球」と呼んだので、「小琉球」とは、それと区別するため「小」の字を入れたと書いてあった。

信ちゃん運転のベンツに、信ちゃんの奥さんのレイちゃんが助手席に座り、私が後席に乗って高速道路を南下した。

小琉球は高雄の港「東港」から、高速船で30分ほどである。フェリーボートは無いので、ベンツを駐車場に預けて高速船に乗った。そしてこの島の民宿



旅館、民宿が並ぶ小琉球の港

で1泊した。

「小琉球」島民は以前は産業も無く、中学を卒業すると台湾本土に渡る人が多かった。今は観光で生活できるようになり、本土に働きに出なくてもよくなった。



蟹注意の交通標識 (小琉球)

私が泊まった民宿は信ちゃんがネットを見て予約を入れていた。風光明媚で評判の宿というふれ込み。千客万来で潤っているようだが、客へのサービスは今ひとつと思った。例として、食事は作らず、近所のバーベキュー屋に丸投げだったし、朝食は近くのコンビニから、取り寄せた「海鮮ハンバーガー」をあてがわれた。「海鮮」というのが特色というべきか。しかし、すばらしいとはいえないものだった。

「小琉球」の見どころはいろいろあるようだが、事前調査が足りず、時間切れとなってしまった。夕暮れに、ウミガメが民宿前の岩場に泳ぎ寄ってくるのが珍しかった。高速船の出帆時刻に制限されるので、一泊して高雄に戻った。

高雄での4月12日の昼食は、信ちゃんがネットで捜した「新台湾原味餐厅-人文怀旧館」という食事処だ。ここも日本のガイドブックに紹介記事がある。現地の表記は「懷舊館」で、当用漢字で書けば「怀旧館」となり、昔を偲ぶということだ。実際、室内の壁や天井が日本統治時代の化粧品や飲物の看板、ポスターで埋めつくされている。

よくも、捨てられずに集めたものだ。瑛瑛製の宣

伝用ネームプレート板は幼い頃の、「萬やさん」の店先を思い出す。その他、知らない台湾映画のポスター、古い映写機など、見飽きない。映画関係の品が多いのが特徴かな。

食事内容だが、豚脂身を醤油で煮た汁を白いご飯にかけて食べる、「猪油拌飯」というのがこの地方の名物。庶民が貧しかった頃の、おかず無しで食べる素朴な食べ物らしい。台湾風味噌汁かけご飯のようなものか。各種定食は白飯ではなく、その「猪油拌飯メシ」になっていた。

私は「豚足」を頼んだので、味付けは「猪油拌飯」と同じようなものだろうか。塩気が私にはやや強いが、皮が透明になってなかなか旨い。

■無為草堂—人文茶館

4月13日、昼食が済むと、高速道路を走って台中に戻る。

不思議なことに台湾の高速道路には、料金所が無い。信ちゃんにどうして？ と尋ねると、車に読



日本統治時代の看板が並ぶ「新台湾原味餐厅」の店内



私が食べた「豚足定食」。おいしいよー。



水・土曜は、池に張り出した棧敷で揚琴を演奏。



無為草堂の入口。

み出しのチップを搭載、高速出入口に読み取りの端末があって車を把握。ほかにナンバープレートを読み取るカメラも併用して、走行料金を割り出すという。料金の精算は、銀行口座から自動的に落とす仕組み。過払いの例は無く、むしろ感知逃れで安くなった場合があるという。また、高速利用の通勤者に金銭的負担にならない配慮をして、最初の20kmまで無料になっている。こうすることで、通勤時間帯の一般道混雑を回避する仕組みにもなっている。高速道路システムは日本より進んでいると思った。

台中に戻る。私はホテル、信ちゃんと奥さんは自宅へとそれぞれ納まった。

夕食は私の希望で、以前連れて行ってもらい、好きになった「無為草堂」。名前のいわれは、老子の言葉から取ったと、ホームページ日本語版に書いてあった。食事もできる茶館で建物はやや古い木造二階建て（一部三階建て）。回廊を巡らした建物中央に池があり、どの客席からも池が見える。母屋から池にせり出した棧敷のような東屋があり、ここで水・土曜の夜は揚琴の生演奏がある。全体の外観は一昔前の日本料亭風で自然と懐かしい気持ちになる。部屋の調度品も何やらいわれがありそうな、掛け軸や置物などが一部の部屋に纏まっておかれ、ちょっとした美術館なみだ。

この店は、大きな交差点の角にあるので、開発業者が目をつけて、高額で土地買収を提示したが、オーナーは断ったという。信ちゃんはオーナーと旧知なので内情に詳しい。

茶館なので大がかりな食事はできないが、こまご

まと楽しい料理が適量で食べ残すことも無い。欠点は酒類が置いていないことで、飲まない人側からは長所になるのかな？

しかし、心配無用。持ち込み自由なので、この日は冷えた缶ビールを持参した。私は酒は好きだが、弱いので少量で満足。信ちゃんはアルコールは駄目。奥さんは夜に仕事があるそうで、この日は来られなかったが、彼女も酒は飲まない。

この夜注文したのは、「香煎鯖魚套餐」。鯖定食といったところか。大根おろしがほしいところだったが、美味しくいただいた。日本的な食事なので、せっかくなら台湾的なものを頼んだ方が良かったかなと、後で思った。

食事が終わってから、館内を見学。その日は水曜日だったので、揚琴の音色が流れてきた。聞いたことのある曲だと記憶を探ると、演歌の「津軽海峡冬景色」だった。演歌は好みでは無いが、揚琴で流れるとまた違った趣だ。

館内見学の流れで、若い女性揚琴奏者のそばを通ったとき、信ちゃんが中華圏では誰もが知っているテレサ・テンテレサ・テンの月が私の心を表わしている月が私の心を表わしている鄧麗君の持ち歌「月亮代表我的心」をリクエストした。

暗い池に映る灯りと窓。撥ね踊るような揚琴の旋律。……曲が終わったとき、私と信ちゃんが思わず拍手をすると、演奏者のショウジエ小姐もニッコリと笑みを返して、互いに満足。楽しい宵だった。 (終わり)

★以上3つの店、「台南担仔麵タイナンタンツォンメン (台中店)」、「新台湾原味餐厅」、「無為草堂」は日本のガイドブックやインターネットにも紹介がある。